

何屋さんと言では言い切れない複業スタイルを 鹿追で実践中



OMARU cafe
鹿追



正保さん(右)とカフェ責任者の出口里美さん

正保 縁(しょうほ ゆかり)さん

大学生生活を網走の東京農大オホーツクキャンパスで過ごす。北海道に魅了され残りたかったが、超就職氷河期により地元香川に就職。その後どうしても北海道に戻りたくなり、鹿追町の研修生、地域おこし協力隊を経て、さつま芋栽培で独立。かねてより複数の生業でやっていきたい思いがあり、農業・カフェ・宿泊・グリーンツーリズムと複数事業を展開進行中。

北海道に移住(1ターン、Uターン)して、新たな取り組みを行う輝く人を紹介するインタビュー。お話を伺うのは、北海道各地を探訪し想いを形にする人との出会いをつなぐ、地域プロデューサーかとうけいこさん。

第5回は香川県出身の正保縁さんです。

北海道とのご縁を教えてください

北海道への憧れあこがが強く、4年間を東京農業大学オホーツクキャンパス(網走市)で過ごしました。勉強も一生懸命しましたが、北海道の生活を満喫していました。一度地元の香川に戻ったのですが、どうしても北海道で暮らしたいという思いを捨てきれず、何とか北海道に暮らすための方策を日々探していました。四国育ちの私が抱く北海道のイメージは十勝平野のような広大なものでした。ある日、鹿追町でとっても素敵な宿舎がある農業実習生プログラムがあることを知り、応募しました。32才の頃です。

半年、畑作農家さんに派遣されました。1年間という期間限定の実習生が終わった後に、どうしても鹿追

に残りたかったので、なにかいい方法がないものかと考えていました。そして地域おこし協力隊という制度を活用しました。担当していたのは、バイオガスパラント(再生エネルギー)です。この熱を利用してサツマイモを育てるプロジェクトでした。3年後には独立することを前提に、無農薬のサツマイモづくりに挑戦し、「神田(正保さんの旧姓です)かんしょ研究所」を立ち上げました。十勝地方では前例のなかったサツマイモを育てること、それも無農薬で…。怖いもの知らずの素人の私は、役場の方含め町の方たちに本当によくしてもらいました。そしてその後、稀有なご縁けうがあり、「トマルカフェ鹿追」を開業しました。

カフェと宿泊施設の融合体「トマルカフェ鹿追」開業から一年半たちましたね

2018年4月オープンですから、そうなりますね。今となっては、タイミングと良い縁が重なった結果、開業できたように思えます。カフェを担当している出口里美さんと、十勝管内の食のイベントで出会って、彼

女の料理がとんでもなく美味しくて衝撃を受けました。この出会いが、出口さんと共にカフェをここ鹿追で始めたいと思ったきっかけだったと言って間違いな
い。この素晴らしい料理をいろんな人に、たくさんの人に食べてもらいたいと思いました。そのタイミングで、出口さんがフリーになると聞きました。出来過ぎでしょ。そういう流れだったのでしょうかね。宿のほうも、もともと私の住む家を探すなかで見つけた空き家を、リノベーションして始めたんです。

「トマルカフェ鹿追」の特徴をお願いします

20年近く空き家だった築60年になる2階建ての建物です。厨房と菓子工房を備え、1階がカウンターとテーブル席、そして子ども連れやお年寄りもゆったりできるカーペット敷きの小上がりがあります。2階には1グループ、1家庭で泊まってもらえる宿泊施設があります。

蕎麦粉のガレットや蕎麦粉を使用したケーキ、コーヒ、自家製ジンジャーエールなどを提供しています。蕎麦産地で有名な鹿追で、あえて蕎麦以外の名物を作ろうという思いもあり、ガレット職人の出口さんの技を提供しています。ケーキやサラダ、スープといった多くの料理にはサツマイモが使われ、年間を通して信頼のおける知り合いの農家さんから仕入れた地元の野菜を使っています。魚や肉も十勝産、北海道産にこだわり厳選して仕入れています。

宿泊部屋に続く階段は昔の物をそのまま使用していますので、とっても急だったり、天井が低かったりして上がるのが少し大変です。でも上がった先には昔読んだ童話に出てくる秘密の屋根裏部屋のような、空間が広がっています。昔の梁が見えるように改修した空間は、現代風なデザインでありながら、懐かしい感覚にいざなわれるとおっしゃるお客様も多いです。

トマルカフェ鹿追の「トマル」の由来、意味を教えてください

トマルには、“泊まる”と“10個のマル（良い事）”と“十勝の輪（マル）”という3つの意味が込められています。いいことが集まる場所、いろんな人が集ま

れる場所にしていきたいです。有難いことに、既にそうなりつつありますね。カフェの方は十勝管内からのリピーターが多いです。最近は食関連のイベントも開催しています。宿の方は札幌圏、本州、そして欧米からの個人客（ご夫妻、カップル、友達同士）が来てくれています。

縁さんが感じる鹿追の魅力はなんですか

この建物が広い公園に囲まれていることもあり、朝夕の野鳥のさえずり、木々の間を抜ける風の音、川の流れなど自然の中に身をひそめることができることが素晴らしいです。地元の方たちにとっては当たり前かもしれませんが、夜、晴れていたら満天の星空が見えることもすごいことです。

実はトラクター好きです。四国では、十勝で走っているいわゆる“外車の大型トラクター”は見る事が出来ません。今でも心躍りますよ。道がまっすぐ。機械が大きい。畑の先が見えない。これも鹿追の魅力です。私の夢は20代の頃は北海道に永住すること。それがいつしか十勝に永住することに、そして今は、鹿追に永住したいに変化しています。ここは、間違いなく田舎だけれど、都会よりいいところ。豊かなところだと思っています。

これからの進む道についてどうお考えですか

「交流しながら泊まれる宿」「居心地のいいカフェ」「グリーンツーリズムとインバウンド」など、この場所を地元鹿追町民はもとより、全国、全世界から人が集まる、そんな空間にしていきたいと思っています。農業、飲食業、宿泊業、旅行業、何屋か一言では言い切れない、複業スタイルもいいかもしれません。

今までは2年や3年スパンで物事を考えていました。でも昨年、子どもができてからは、私自身が10年先を考えて動くようになりました。これは大きな変化かもしれません。これから何をしようか、まさに考え中なんです。（インタビュー11月18日）

インタビュー後記

縁さんに最初に出会ったのは、確か3年前の冬に札幌で開催されたグリーンツーリズムの勉強会でした。トマルカフェ鹿追には5回ほどお邪魔し、1度宿泊しています。十勝生まれ育ちの私でも、再訪したい特別に気持ちのよい場所です。

かとう けいこ（株）まちづくり観光デザインセンター代表